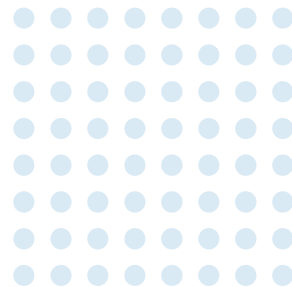




オープンデータ研修テキスト

ワークショップカタログ集

デジタル庁



※本書は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) に従って利用が可能です

改版履歴

版数	日付	内容
1.0版	2023年1月	初版
1.1版	2023年3月	ワークショップメニュー6種類追加

目次

はじめに P05-06

オープンデータ作成ワークショップ

ウィキペディアタウン P07-13

マッピングパーティ P14-19

オープンデータソン P20-24

オープンデータ活用ワークショップ

アイデアソン P25-29

5374.jp P30-34

目次

オープンデータ活用ワークショップ

Glide	P35-39
シビックパワーバトル	P40-46

オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ

Tableauアイデアソン	P47-51
Tableauメイクオーバー	P52-56
Tableauワークオン	P57-61
Tableau未経験者ハンズオン	P62-66

はじめに

本書の位置づけ

- 本書は、オープンデータ利活用推進にあたり外部と協働したワークショップを実施したい地方公共団体向けに、ワークショップ事例を紹介したカタログ集です。
- 本書は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) に従ってご利用が可能です。
- 本書の内容を二次利用する場合は、下のガイドに従ってクレジット表記をしてください。初級編にはクレジット表記の例も掲載していますので参考にしてください。

<https://creativecommons.jp/faq/#a7>

はじめに

本書の位置づけ

本書は、全4編の「オープンデータ研修」テキストの内、以下のとおりの位置づけです。

種類	対象	概要
お手軽導入編	オープンデータに未取組の地方公共団体の職員もしくはオープンデータを初めて担当する職員	オープンデータの制度上の位置づけを理解した上で、オープンデータへの取組をまずやってみる手順を解説したテキスト
初級編	取組はしているものの、データセットが増えない、更新が無い等の継続に課題を抱える地方公共団体の職員	オープンデータの背景や概念、取り組む上での課題や好事例等を理解の上、データセット増加やデータ更新を全庁的に継続していくための基本的な知識を網羅した入門テキスト
中級編	既に取組をしていて、更にオープンデータの利活用を進めたい地方公共団体	日本の目指す未来社会とオープンデータの関連を理解するとともに、更にオープンデータの利活用を促進するために必要なデータに関する基礎知識等を理解するテキスト
ワークショップカタログ集	利活用の方法として具体的なワークショップを実施したい地方公共団体	オープンデータサポート団体等の外部と協働しながらオープンデータの利活用を進めていくにあたり、ワークショップ事例を知るためのカタログ集

ウィキペディアタウン

キーワード

住民主体

地域アーカイブ

官民共創

機運醸成

ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの概要

ウィキペディアタウンとは、日本においては**ウィキペディアに記事を掲載することを目的としたイベント**を指すことが多く、まち歩きやウィキペディアへの書き込みルールの解説等が行われた後、書き込みワークショップが行われるケースが多いです。

2013年、神奈川県横浜市でウィキペディアタウンを企画・実施したことを皮切りに、全国各地で実施されています。

元来のウィキペディアタウンとは、2012年イギリスウェールズにあるまち「モンマス」が起源であり、まちにある「文化・観光資産」に関する情報をウィキペディアを利用してアーカイブを行ったことに由来し、施設に二次元バーコードを貼り付け、携帯端末等からのアクセスを容易にする取組のことを指します。



ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

本ワークショップの主な目的や狙いは以下のとおりです。

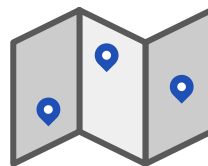
💡 住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、まち歩きをする中で地域の再発見をしたり、地域資料を利用した文献調査によって地域理解を深めることで、住民主体のまちづくりへつなげる効果を狙います。



💡 オープンデータ化による 新たな価値創造

成果をオープンデータ化することにより、観光や地域ガイドアプリから二次利用されやすくなるため、新しい地域の価値の創造につながります。



準備のポイント（1/3）

ウィキペディアの基本原則を予め理解する

ウィキペディアには運用に係る**5つの基本原則**が以下のとおり定められています。予めこれらを把握・理解の上、準備を進める必要があります。

ウィキペディアの基本原則：五本の柱※

1. ウィキペディアは百科事典です。
2. ウィキペディアは中立的な観点に基づきます。
3. ウィキペディアの利用はフリーで、誰でも編集が可能です。
4. ウィキペディアには行動規範があります。
5. 上の4つの原則の他には、ウィキペディアには、**確固としたルールはありません。**



※ Wikipedia:五本の柱 @ウィキペディア [クリエイティブ・コモンズ・ライセンス](https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia::五本の柱) (表示-継承 3.0 非移植)
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia::五本の柱>)

準備のポイント（2/3）

開催体制・テーマの検討

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。前頁のウィキペディアの基本原則を踏まえ、経験者との連携も検討します。
- 開催目的や書き込みテーマを検討します。

✓ **経験者や図書館等との連携** ウィキペディアの編集経験者との協力体制を検討するとともに、地域情報の文献調査のため図書館等との連携も検討します。

✓ **テーマの選定・場所調査** どのような目的でまち歩きを行い、何を書き込むかというテーマを事前に選定し、どの場所が合うかを調査します。

準備のポイント（3/3）

ワークショップ設計・環境準備

- まち歩きの間を考慮しながら、全体的なワークショップの流れや時間配分を検討します。
- ウィキペディア投稿のための環境（アカウント、パソコン、Wi-Fi等）を準備します。

✓ **会場や対象地域の選定** まち歩きが中心のため、総合的な移動時間や配車等も考慮の上、会場や地域を選定します。

✓ **環境の準備** ウィキペディアに記事を作成・投稿するためには専用のアカウントが必要なため、事前に作成しておくこと当日がスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

✓ **その他留意点** まち歩きに際してイベント保険に加入する等も検討します。

ウィキペディアタウン（オープンデータ作成ワークショップ）

タイムテーブル例

午前から開始する場合の一例を記載します。

09:50 会場準備、受付開始

10:00 開会、趣旨説明

10:30 インプットトーク（例：まちの歴史等）

11:00 ウィキペディアに関する説明や資料の説明等

12:00 懇親も兼ねて昼食

13:00 出発・フィールドワーク(例：学芸員に話を聞く・写真撮影・見学等)

14:30 全チームの戻りを確認、休憩、文献調査・ウィキペディアの編集

16:00 成果発表

16:30 クロージング・感想等

17:00 解散、会場片付け、文献返却



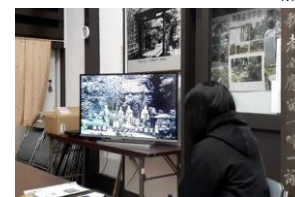
※1



※2



※3



※4

マッピングパーティ

キーワード

住民主体

地域アーカイブ

官民共創

機運醸成

マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの概要

マッピングパーティとは、災害時に使える施設や避難経路、バリアフリー、観光スポット等特定のテーマに沿った情報を実際にまち歩きをして集め、「**オープンストリートマップ（OpenStreetMap : OSM）**」に地図情報を書き込むイベントのことです。

オープンストリートマップとは、オープンライセンスの下で、誰でも自由に利用できるだけでなく、地図を共同作成できるものです。

マッピングパーティは、2004年にイギリスで始まり、日本を含む世界各地に広がります。



マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

本ワークショップの主な目的や狙いは以下のとおりです。

住民主体のまちづくりへ

テーマにそった地域の情報をまち歩きして集めることで、地域課題の発見や新しい観光スポット等の発見を促したり、地図作りをしながらまちに詳しくなることで、災害時に安全なルートを案内できる人や地域の魅力を発信する人の育成を狙います。

オープンデータ化による 新たな価値創造・災害対応

成果をオープンデータとして提供することにより、観光や地域ガイドアプリから二次利用されやすくなるため、新しい地域の価値の創造につながります。また、平時の地図をオープンデータ化しておくことで災害時に比べることができ、迅速な被害の把握や避難ルートの作成等に役立ちます。

準備のポイント（1/2）

開催体制・テーマの検討

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。マッピングパーティ経験者等との連携も検討します。
- 開催目的や書き込みテーマを検討します。

✓ 経験者との連携

マッピングパーティ経験者や、オープンストリートマップを編集したことがある経験者との協力体制を検討します。

✓ テーマの選定・ 場所調査

どのような目的でまち歩きを行い、何を書き込むかというテーマを事前に選定し、どの場所が合うかを検討します。

準備のポイント（2/2）

ワークショップ設計・環境準備

- まち歩き的时间を考慮しながら、全体的なワークショップの流れや時間配分を検討します。
- オープンストリートマップ編集のための環境（アカウント、ツール、パソコン、Wi-Fi等）を準備します。

✓ **会場や対象地域の選定** まち歩きが中心のため、総合的な移動時間や配車等も考慮の上、会場や地域を選定します。

✓ **環境の準備** オープンストリートマップ編集には、アカウント登録、および用途に応じた地図編集ツールが必要なため、事前に準備をしておくとう当日がスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

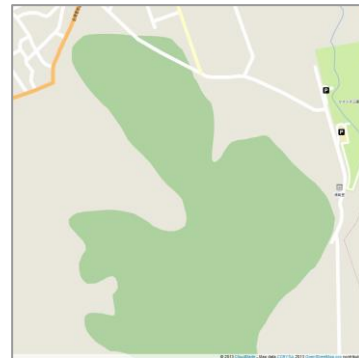
✓ **その他留意点** まち歩きの際には書き込み用の地図を印刷して配布します。また、イベント保険に加入する等も検討します。

マッピングパーティ（オープンデータ作成ワークショップ）

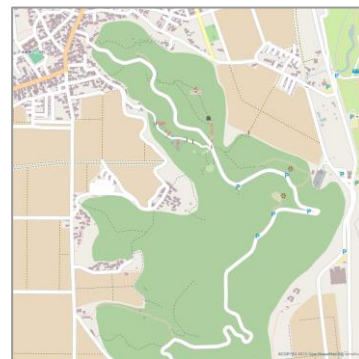
タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

-
- | | |
|--------------|--|
| 12:00 | スタート地点に現地集合
テーマや注意事項の伝達、チーム分け自己紹介 |
| 12:30 | まち歩きスタート
(事前に用意した地図に情報を手書きで書き込む) |
| 14:30 | 屋内へ移動 |
| 15:00 | 全チームの戻りを確認、休憩
オープンストリートマップの紹介とマッピング（地図編集） |
| 17:00 | 成果発表 |
| 17:30 | クロージング・感想等 |
| 18:00 | 解散、会場片付け |
-



マッピング前



マッピング後

オープンデータソン

キーワード

住民主体

地域アーカイブ

コラボレーション

官民共創

機運醸成

オープンデータ活用

オープンデータソン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの概要

オープンデータソンとは、**別々の地域団体が連携して一緒にデータ作成する活動**です。歴史、文化、防災、防犯、子育てなど、各団体の課題を解決させる手段として、各団体で共通して利用するオープンデータを共同で作成し、アイデアソンやハッカソンでデータを活用したアプリやサービスを開発することで、課題解決を目指します。

また、共同活動により、団体の枠を超えてコミュニケーションが進み、新しい共創にも繋がっていきます。

例えば、図書館司書とアプリ開発者が連携することで、地域の歴史や文化を記載した地図アプリを開発し、便利により多くの方たちに伝えられます。



オープンデータソン（オープンデータ作成ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

本ワークショップの主な目的や狙いは以下のとおりです。

住民参加で多角的なデータ作成

ワークショップの進め方はウィキペディアタウンやマッピングパーティと基本的に同じ流れですが、共通テーマを設定することで、地図（地理空間情報）と記事、写真が揃うため、アイデアソンやハッカソンなど他の団体・活動と連携しやすくなります。

住民のコミュニケーション促進 お互いの存在・活動を知る機会

各種団体がオープンデータを一緒に作ることで、普段は知り合う機会が少ない方たちがお互いの活動内容を知るきっかけとなり、新しい活動に繋がっていく可能性が考えられます。

オープンデータソン（オープンデータ作成ワークショップ）

準備のポイント

開催体制・テーマの検討

- ウィキペディア編集は図書館、OpenStreetMap編集はマッパーとの連携を検討します。
- オープンデータの活用方法（アプリ開発やデータ充実）を含めてテーマを検討します。
- 検討した活用方法に合わせて、関係する地域団体や地方公共団体などとの連携をします。
- 具体的な準備は、ウィキペディアタウンとマッピングパーティの説明を参考にします。

✓ 活用方法の検討

歴史、文化、子育てなど、各団体が興味を持つ事柄と過去のウィキペディアタウンやマッピングパーティの成果を調べ、作成が必要なデータ（歴史なら寺社仏閣など）を調査します。

✓ 関連団体と連携

設定したテーマに関連する団体へ声を掛けて、一緒に活動が出来るか打診します。また、ITスキルに自信が無い方たちと活動する際は、パソコン操作説明などの事前準備も行います。

✓ データ整備と活用

オープンデータ作成はオープンデータソンとして活動しつつ、データ活用のアイデアソンやハッカソンの開催へと繋がります。

オープンデータソン（オープンデータ作成ワークショップ）

タイムテーブル例

午前から開始する場合の一例を記載します。

	ウィキペディア編集	OpenStreetMap編集
10:00	編集会場（図書館など）に集合。イベントの趣旨説明を行う ウィキペディアとOpenStreetMapの概要説明を行う	
12:00	食事休憩	
13:00	まち歩き（現地取材） 写真撮影など	まち歩き（現地調査） 地物の記録など
15:00	ウィキペディア編集方法の説明	OpenStreetMap編集方法の説明
15:30	ウィキペディア編集	OpenStreetMap編集
17:30	ウィキペディア + OpenStreetMap + アプリ成果発表（ある時） クロージング・参加者の感想（今後の活用方法のアイデアなど）	
18:00	解散、会場片付け	



アイデアソン

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

アイデアソン（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの概要

アイデアソンとは、アイデアとマラソンを掛け合わせた造語で、行政の持つ課題などについて、その解決策を住民とともに考えるワークショップです。決められた時間内にアイデア出しからそのブラッシュアップまで、参加者全員で手順を踏んで進めていきます。

行政の持つ課題は様々ですが、その解決には住民自身の理解や協力が不可欠なものが多くあります。

そうした課題についてはオープンデータを初めとする客観的な事実をベースに住民と行政と一緒に考えることで相互理解が生まれ、解決のヒントが得られることがあります。



ワークショップの目的・ねらい

💡 住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、住んでいる地域の課題について事実に基づいて現状を正しく把握をしたり、住民と行政が協働で課題解決に取り組むことで、自分たち自身でも行政の抱える課題の解決に参加できるという意識づくりを狙います。

💡 オープンデータの活用方法を知る

アイデアソンでは課題から考えることが重要ですが、場合によっては公開済みのオープンデータが、その解決策の裏付けとして有効な場合があります。オープンデータを実際に活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組の狙いや市民目線での活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

💡 テクノロジーを身近に

生まれたアイデアの内容によっては、データを活用するアプリとの組合せで効果を発揮しそうな場合があります。そういう場合はアイデアソンに続く**ハッカソン***を企画し、アプリの雛型開発につなぐ場合もあります。

*ハッカソン：アイデアソンの成果などを元に実際にアプリを試作するワークショップ

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態があります。アイデアソンに詳しい講師との連携も検討します。
- アイデアソン開催に必要な、参加者向けのインプットとなる情報や文具等を準備します。

✓ **経験者との連携** アイデアソンの開催経験者との協力体制を検討します。

✓ **テーマの準備** アイデアソンの成功には適切なテーマ設定が重要です。経験者と話し合いながら課題の分野、粒度などを事前に決定します。

アイデアソン（オープンデータ活用ワークショップ）

タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00 会場準備、開場、受付開始

13:00 開始、主催者挨拶

13:15 テーマについての事前インプット

13:30 参加者自己紹介、チームわけ

13:45 作業開始 ●

16:30 成果発表

17:00 クロージング・感想等

17:30 解散、会場片付け

1. アイデア出し（発散）
2. アイデアの整理（分類・収束）
3. アイデアの発展
4. データとの紐付け、利用シーンの想定
5. 発表形式へのまとめ、など

5374.jp

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

5374.jp (オープンデータ活用ワークショップ)

ワークショップの概要

5374.jpとは、ゴミ情報のオープンデータを活用した**ごみの分別と収集日が誰でもすぐ分かるアプリケーション**です。地域のごみ問題を解決するため、シビックテックコミュニティである(一社)コード・フォー・カナザワが開発しました。

5374.jpのサイトでは、ソースコードが公開されているため、誰でも自分のまちの5374.jpを作成できることから、**ゴミ情報のオープンデータを活用した、地域課題解決ワークショップの題材**として全国で使用されています。



ワークショップの目的・ねらい

住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、住んでいる地域のごみの情報や課題について調べたり、住民同士で協力しながら必要なデータやアプリを作成することで、自分たちでテクノロジーを使って地域課題解決ができるという意識づくりを狙います。

オープンデータの活用方法を知る

ゴミ情報のオープンデータを活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組状況や活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

テクノロジーを身近に

プログラミング経験のない人でも簡単にアプリケーションが作成ができるため、テクノロジーに対してのハードルを下げ、身近に感じられる効果を狙います。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。5374.jpに詳しい講師との連携も検討します。
- オープンデータ取得や地域課題調査のためのパソコン・Wi-Fi環境、5374.jpの作成環境（GitHubアカウント）を準備します。

✓ **経験者との連携** 5374.jpの作成経験者との協力体制を検討します。

✓ **環境の準備** 5374.jpの作成はGitHub[※]を活用するため、GitHubアカウントを事前に作成しておくことがスムーズです。パソコンやWi-Fi環境も手配します。

5374.jp (オープンデータ活用ワークショップ)

タイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00 会場準備、開場、受付開始

13:00 開始、主催者挨拶

13:15 5374.jp について解説

13:30 参加者自己紹介、チームわけ

13:45 作業開始 ●

16:30 成果発表

17:00 クロージング・感想等

17:30 解散、会場片付け

1. GitHubから「5374.jp」を作るために必要なプログラムをコピーする
2. 自分たちの地域のゴミの最新情報を集める
(地方公共団体HP等)
 - ゴミの区分、ゴミの区分の収集曜日、収集センターの休止期間、ゴミの区分(分別) 毎のゴミ種類一覧
3. 4種類のデータファイルを作成する
 - center.csv (収集センターの休止期間)
 - description.csv (ゴミの区分)
 - target.csv (ゴミ区分の対象となるゴミ種類)
 - area_days.csv (地区の収集スケジュール)
4. アプリに反映させる

Glide

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

Glide（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの概要

Glideとは、アメリカ発の**アプリケーション開発用ノーコードツール**です。基本的な機能は無料で利用でき、プログラミング経験のない人でも、Microsoft ExcelやGoogle スプレッドシートの扱い方さえ分かれば、豊富なテンプレートを利用して簡単にWebアプリケーションを作成することができます。

プログラミング経験のない人でも、オープンデータを使用しながら簡単にWebアプリケーションを作成できることから、**オープンデータを活用した地域課題解決ワークショップ**の題材として使用されています。



ワークショップの目的・ねらい

住民主体のまちづくりへ

地域住民自らが、テーマに沿った課題について調べたり、どんなアプリがあると課題解決できるかを考えながら、必要なデータを入手してアプリを作成することで、自分たちでテクノロジーを使って地域課題ができるという意識づくりを狙います。

オープンデータの活用方法を知る

テーマに沿ったオープンデータを活用することで、地方公共団体のオープンデータの取組状況や活用方法を市民が知るきっかけづくりを狙います。

テクノロジーを身近に

プログラミング経験のない人でも簡単にアプリケーションが作成ができるため、テクノロジーに対してのハードルを下げ、身近に感じられる効果を狙います。

準備のポイント

開催体制・テーマの検討、環境準備

- 地方公共団体主催、地域団体と共催、地域団体主催・地方公共団体後援等、様々な形態を取ることが可能です。Glideに詳しい講師との連携も検討します。
- テーマ（作成対象アプリケーション）をどのように決めるのか、段取りを検討します。
- オープンデータ取得や地域課題調査のためのパソコン・Wi-Fi環境、およびGlideの使用環境（アカウント）を準備します。

✓ **経験者との連携** Glideに詳しい講師との協力体制を検討します。

✓ **テーマ設定** 当日に地域課題を調査してテーマを決めるところから実施するのか、テーマを事前に決めておくのか検討します。

✓ **環境の準備** Glideのアカウントを事前に作成しておくことで当日がスムーズです。
パソコンやWi-Fi環境も手配します。

Glide（オープンデータ活用ワークショップ）

当日のタイムテーブル例

午後から開始する場合の一例を記載します。

12:00	会場準備、開場、受付開始
13:00	開始、主催者挨拶
13:15	Glideについて解説 Glideを活用したアプリ事例紹介等
13:30	参加者自己紹介、アイデア出し、チームわけ
13:45	作業開始 ●
16:30	成果発表
17:00	クロージング・感想等
17:30	解散、会場片付け

1. アプリに必要なオープンデータを入手し、GoogleスプレッドシートやMicrosoft Excelに書き込む
2. アプリ上の表示用にデータに加工する
3. Glideで作成したデータを読み込む
4. 画面表示のレイアウトやデザイン等を調整する

シビックパワーバトル

キーワード

住民主体

課題解決

機運醸成

オープンデータ活用

シビックパワーバトル（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの概要

シビックパワーバトルとは、シティプロモーション×オープンデータ利活用による、市民参画推進プログラムです。全国の自治体では、まちの魅力を広域に発信するためにさまざまな取り組みを行っていますが、近年、市民がまちを愛する気持ち（シビックプライド）が重要だともいわれています。ただ現状では、各自治体でばらばらに取り組んでいたり、市民不在で自治体だけで魅力発信を進めていたり、かけるコストや労力に見合う効果が出ていないという課題もあります。

そこで今まで埋もれていた、または知らなかったまちの魅力をオープンデータを活用しながら発掘し、地域の魅力発信につなげたい。それを市民や団体、企業とともにいき、同様な悩みを抱える複数自治体が集まることで、あらたな魅力発信の仕組みづくりをしていくことを目指して開発されました。**住民が、自らの住むまちの魅力をプレゼンでバトルしあう**という手法です。



シビックパワーバトル（オープンデータ活用ワークショップ）

ワークショップの目的・ねらい

💡 シティプロモーション理論を実践し その意義を感じることができる

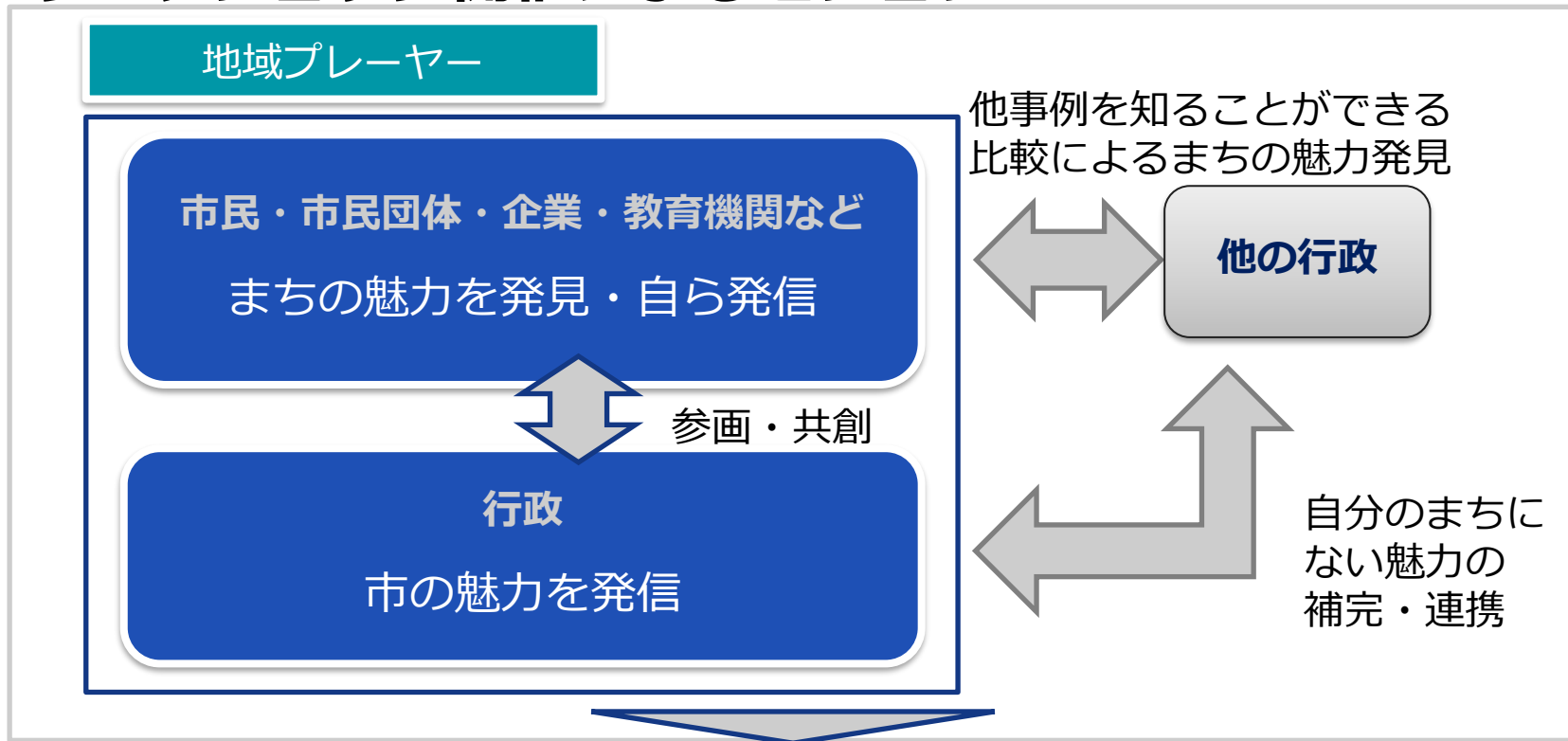
地域住民の方とともに、オープンデータを活用しながらその地域の特長を深掘することで、以下のような成果を得ることを狙います。

1. より有効なシティプロモーションを行える。
2. オープンデータの利活用を体験できる。
3. シビックプライドの醸成を図れる。
4. まちを愛する住民との共創が体験できる。

💡 こだわり

- ①単なるまちのプレゼンテーションではなく、行政間の連携による「地域間の戦いの場」
- ②オープンデータを活用したプロモーション
- ③行政と市民、団体や企業が協働し、まちづくり共創につなげる

ワークショップ開催によるビジョン



より有効なシティプロモーションを実現

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- 大会の開催・参加にあたっては3つの方法があります。
 1. シビックパワーアライアンス実行委員会(CPA)が開催する「全国大会」にエントリーする
 2. 複数の自治体で協力し開催する
 - ・有志の自治体同士での協働開催
 - ・既存の自治体協議会・広域連合等のプログラムとして開催 等
 3. 単独の自治体内で開催する

✓ **経験者との連携** CPAや過去の実施自治体と相談し、開催形態を検討します。

✓ **テーマの準備** 各自治体のプロモーションをする際のテーマ設定が重要です。
課題の分野、粒度などを事前に決定します。

シビックパワーバトル（オープンデータ活用ワークショップ）

開催に向けたステップ

大会開催に向けた準備の一例を記載します。

1年前	複数（最低2か所）の自治体間で開催事務局を設置
10か月前～	開催事務局から、他の自治体に声掛け、参戦自治体を募る（3～5程度）
6か月前～	参戦自治体による会合①。「バトルのテーマ」「開催方法」等を検討 並行して各自治体において、バトルに参加する市民（団体）を募集
4か月前～	参戦自治体による会合②。審査員や進行案を検討、バトルの審査方法を検討 各自治体において市民ワークショップ開催、プレゼン作成方法習得 ●
2か月前～	参戦自治体による会合③。バトルの開催概要公表、当日視聴者を募る 当日のバトルを盛り上げる仕掛けを作る（動画等）
2週間前～	バトルに参加する市民のプレゼンテーション案をそれぞれ固める 当日の質疑内容を調整する
当日	バトル開催
事後	バトルの結果をオープンデータとして原則公開

次ページ

シビックパワーバトル（オープンデータ活用ワークショップ）

タイムテーブル例

市民向けワークショップ開催の一例を記載します。

9:00 会場準備、開場、受付開始

10:00 開始、主催者挨拶

10:15 シビックパワーバトルの解説

11:00 作業開始

16:45 作業まとめ（講評、感想、今後の進め方）

17:00 解散、会場片付け

1. まちの魅力を発掘してみよう
2. データを探してみよう
3. ストーリーをつくってみよう
4. プレゼンテーションをしてみよう
（動画撮影）

Tableauアイデアソン

キーワード

課題解決

データ分析

市民参加可能

プレゼンテーション

オープンデータ活用

ワークショップの概要

Tableauアイデアソンは、Tableauを使ってデータ分析・視覚化することで、課題の抽出や、解決のアイデアを抽出する試みです。2つのアプローチがあります。

（１）データ指定：主催者が準備したデータを参加者が自由に加工・分析して、その中から特徴量を割り出し、課題や強み等を抽出します。

（２）テーマ指定：主催者が準備した課題に対して、参加者がオープンデータの収集から始め、分析し、解決策をプレゼンテーションします。主催者がデータを準備することもあります。

ワークショップの目的・ねらい

💡 データ分析の目的である課題解決へアプローチする

データ分析は人に何らかの行動変容を起こし課題を解決するためのプロセスの一つのピースです。本ワークショップでは、参加者がデータ分析の実務当事者であると仮定してデータ分析に取り組みます。そして行動変容の主体者に審査者を務めてもらいます。参加者がデータ分析の結果と改善策の案をプレゼンテーションして、審査者から見て優れたチームを表彰します。副賞の賞金を設定し、実現性のある改善策案は現実の取り組みへの採用を検討します。

💡 オープンデータの活用方法を知る

世の中にあるオープンデータを縦横無尽に扱うことで利便性や課題を垣間見ることが出来ます。実務活用との距離を測ることができます。

💡 データ人材の発掘・育成

ワークショップはチームを組んで行います。Tableauのスキルレベルもバランスよく配置しますので、初級者は上級者の考え方やテクニック、プレゼンテーション能力を間近に見ることができます。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- リアル会場：参加者の人数に応じた会場を準備して下さい。グループ・ワークも行いますので可動式の什器が必要です。テーマ指定は前・後編に分かれますので都合2回会場をご準備下さい。
- オンライン：ブレイクアウトセッションが可能なオンライン会議システムを準備して下さい。

✓ 全体ファシリテーター

ODサポーターがファシリテーターおよび経験者を準備します。

✓ データの準備

テーマ、データは地方創生などの既存のものが有ります。それ以外をご希望の場合は、準備期間を含めてご相談下さい。

タイムテーブル例

1回目

12:00 会場準備・打ち合わせ

12:30 開場、受付開始

13:00 開始・主催者あいさつ

13:10 概要説明

13:20 環境準備

13:30 ワークショップ開始

14:30 質疑応答

14:30 解散、会場片付け

2回目

12:00 会場準備・打ち合わせ

12:30 開場、受付開始

13:00 開始・主催者あいさつ

13:10 プレゼンテーション1

13:30 プレゼンテーション2

13:50 プレゼンテーション3

14:10 全体講評

14:30 解散、会場片付け

Tableauメークオーバー

キーワード

課題解決

データ分析

プレゼンテーション

オープンデータ活用

ワークショップの概要

メークオーバーは参加者のスキルアップを目的とし、既存のダッシュボードを参加者がより良く作り変えるグループ・ワークです。通常3～5人のチームを組み、メンバーはそれぞれダッシュボードを作成する人、ファシリテーター、タイムキーパー等の役割を担います。決められた時間内に作業を完了させます。最後に全体に対して発表する時間があります。Tableauのより深く広いテクニックと改善アイデアを求められますから、ワークオンに比べてレベルが高いワークショップです。

データ分析や視覚化は複数のメンバーが力を合わせると成功しやすいものです。メークオーバーによってデータ分析・視覚化のスキルだけでなく、チームワークの重要性と効果を実感できます。発表の機会も与えられるため、参加者は程よい緊張感と充実感を得られると思います。

ワークショップの目的・ねらい

より深く広いテクニックとアイデアを身につける

メークオーバーする既存ダッシュボードは、それ自身で完成したものです。それをより良くするには、広く深いデータ加工、分析、視覚化、デザインの技術を要求されます。また多くのダッシュボードの知識バリエーションを求められます。

オープンデータの活用方法を知る

ダッシュボードはオープンデータを利用しています。どのような目的・アイデアを元に、データをどのように加工して実現しているかを知ることが出来ます。

チームワークの大切さ

チームに分かれて共同作業をすることで、個人では得にくいテクニックや知識、多様な観点を知ることができます。またチームの一体感を味わうことが出来ます。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- リアル会場：参加者の人数に応じたチームごとのテーブルをアレンジできる会場を準備して下さい。参加者はTableau Publicがインストールされたパソコンをご準備下さい。
- オンライン：ブレイクアウトセッションが作成できるオンライン会議システムを準備して下さい。参加者はTableau Publicおよびオンライン会議システムがインストールされたパソコンをご準備下さい。

✓ 全体ファシリテーター

全体セッションを取り仕切るファシリテーターおよびスタッフを準備します。ブレイクアウトセッションはテーブル毎にファシリテーターを決めます。1テーブルに1人経験豊富なメンバーを配置します。

✓ データの準備

改善するダッシュボードは準備されています。参加者が興味を持てるように、オープンデータを地元の情報に限定して準備します。

Tableauメイクオーバー（オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ）

タイムテーブル例

リアル会場において午後から開始する場合の一例を記載します。
オンラインの場合は会場準備がないだけで他は同じです。

12:00 会場準備・打ち合わせ

12:30 開場、受付開始

13:00 開始・主催者あいさつ

13:10 ワークショップの概要説明・チーム分け

13:30 チームごとの作業開始 ●

14:30 チームごとの作業完了

14:30 チームごとの発表

15:00 解散、会場片付け

1. チームメンバー自己紹介
2. 役割分担の決定
3. 作業開始
4. 作業終了
5. 発表者の決定、発表ポイントのまとめ

Tableauワークショップ

キーワード

課題解決

データ分析

プレゼンテーション

オープンデータ活用

Tableauワークオン（オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ）

ワークショップの概要

ワークオンは参加者のスキルアップを目的とし見本のダッシュボードを参加者が一から作り上げるグループ・ワークです。通常3～5人のチームを組み、メンバーはそれぞれダッシュボードを作成する人、ファシリテーター、タイムキーパー等の役割を担います。決められた時間内に作業を完了させます。最後に全体に対して発表する時間があります。

データ分析や視覚化は複数のメンバーが力を合わせると成功しやすいものです。ワークオンによってデータ分析・視覚化のスキルだけでなく、チームワークの重要性と効果を実感できます。参加者は程よい緊張感と充実感を得られると思います。

ワークショップの目的・ねらい

経験者のスキルを体験

ワークオンするダッシュボードは、長年のデータ分析キャリアを持つ人のベストプラクティスに基づいたものです。その制作プロセスを追体験することで、データ加工、分析、視覚化、デザインの技術を、すばやく身につけることができます。



オープンデータの活用方法を知る

ダッシュボードはオープンデータを利用しています。どのような目的・アイデアを元に、データをどのように加工して実現しているかを知ることが出来ます。



チームワークの大切さ

チームに分かれて共同作業をすることで、個人では得にくいテクニックや知識、多様な観点を知ることができます。またチームの一体感を味わうことが出来ます。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- リアル会場：参加者の人数に応じたチームごとのテーブルをアレンジできる会場を準備して下さい。参加者はTableau Publicがインストールされたパソコンをご準備下さい。
- オンライン：ブレイクアウトセッションが作成できるオンライン会議システムを準備して下さい。参加者はTableau Publicおよびオンライン会議システムがインストールされたパソコンをご準備下さい。

✓ 全体ファシリテーター

全体セッションを取り仕切るファシリテーターおよびスタッフを準備します。ブレイクアウトセッションはテーブル毎にファシリテーターを決めます。1テーブルに1人経験豊富なメンバーを配置します。

✓ データの準備

作成するダッシュボードのフォーマットは準備されています。参加者が興味を持てるように、オープンデータを地元の情報に限定して準備します。

Tableauワークオン（オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ）

タイムテーブル例

リアル会場において午後から開始する場合の一例を記載します。
オンラインの場合は会場準備がないだけで他は同じです。

12:00 会場準備・打ち合わせ

12:30 開場、受付開始

13:00 開始・主催者あいさつ

13:10 ワークショップの概要説明・チーム分け

13:30 チームごとの作業開始 ●

14:30 チームごとの作業完了

14:30 チームごとの発表

15:00 解散、会場片付け

1. チームメンバー自己紹介
2. 役割分担の決定
3. 作業開始
4. 作業終了
5. 発表者の決定、発表ポイントのまとめ

Tableau未経験者ハンズオン

キーワード

課題解決

データ分析

プレゼンテーション

オープンデータ活用

Tableau未経験者ハンズオン（オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ）

ワークショップの概要

未経験者ハンズオンは、Tableauの紹介を目的として、講師が示す手順にしたがって参加者が簡単なTableauのダッシュボードを作り上げるハンズオン・ワークショップです。ダッシュボードは、基本的なグラフや表を組み合わせたものになります。作り上げるプロセスにおいて、講師からTableauの画面や用語、機能を紹介しつつ、その効果や目的を解説します。

10～20人の参加者を見込んだ構成です。すべての参加者が漏れなく完了できるように、講師のほかにサポーターを会場に複数人配置します。参加者は付いていけなくなったら手を挙げてサポートを依頼します。サポーターは講師に連絡し、プロセスをいったん止めます。

ワークショップの目的・ねらい

データ分析・視覚化を体験

未経験者ハンズオンで制作するダッシュボードは基本的なグラフや表です。その制作プロセスを体験することで、データ加工、分析、視覚化、デザインがどういったものか実感できます。

オープンデータの活用方法を知る

ダッシュボードはオープンデータを利用してあります。どのような目的・アイデアを元に、データをどのように加工して実現しているかを知ることが出来ます。

データ人材の発掘・育成

データの仕事は数多くありますが、データを扱える人は限られています。なるべく多くの人に未経験者ハンズオンに参加してもらい、Tableauの楽しさを経験してもらおうことで、より多くのデータ人材の掘り起こしを図ります。

準備のポイント

開催体制の検討・環境準備

- リアル会場：参加者の人数に応じた会場を準備して下さい。
- オンライン：オンライン会議システムを準備して下さい。

- ✓ **全体ファシリテーター** 講師およびサポーターを準備します。サポーターは1人は経験者を配置し、それ以外は未経験者でも大丈夫です。
- ✓ **データの準備** 作成するダッシュボードのフォーマットは準備されています。参加者が興味を持てるように、オープンデータを地元の情報に限定して準備します。

Tableau未経験者ハンズオン（オープンデータ加工・分析・可視化ワークショップ）

タイムテーブル例

リアル会場において午後から開始する場合の一例を記載します。

オンラインの場合は会場準備がないだけで他は同じです。

12:00 会場準備・打ち合わせ

12:30 開場、受付開始

13:00 開始・主催者あいさつ

13:10 ワークショップの概要説明

13:20 環境準備

13:30 ハンズオン・ワークショップ開始

14:15 質疑応答

14:30 解散、会場片付け

1. Tableau Publicのインストール
2. データのダウンロード
3. Tableauでデータの読み込み